

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																				
専門学校 名古屋デザイナー学院		昭和52年4月1日	北代 雅典		〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5-1-3 (電話) 052-262-0683																				
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																				
学校法人Adachi学園		昭和42年1月12日	安達 暁子		〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2丁目11番地 (電話) 03-5283-6288																				
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																			
文化・教養	文化教養専門課程	ビジュアルデザイン学科			平成15年文部科学省 告示第21号	-																			
学科の目的	本学科は、デザインに関する専門分野のスペシャリストとして必要な基本的知識、技術、人格、徳性を習得させることを教育の基本と位置づけ、問題解決のための発想力・応用力の向上を目指し、実務適応できる人材育成をすることを目的とする。																								
認定年月日	平成26年3月31日(職業実践専門課程)																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
	2年 昼間	120単位	40単位	40単位	120単位	-	2単位																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
80		113	0	2	17	19																			
学期制度	■前期: 4月1日~9月30日 ■後期: 10月1日~3月31日			成績評価	■成績表: ..... 有 ■成績評価の基準・方法 実技試験・作品審査・課題提出の内容を総合的に判断した5段階評価																				
長期休み	■学年始: 4月13日~2月16日 ■夏季: 7月22日~9月 3日 ■冬季: 12月23日~1月 8日 ■学年末: 3月 5日			卒業・進級 条件	所定の課程を納め各試験に合格した者について進級及び卒業を認める。																				
学修支援等	■クラス担任制: ..... 有 ■個別相談・指導等の対応 個別学習支援・場合によっては、家庭訪問			課外活動	■課外活動の種類 学園祭等の実行委員会等  ■サークル活動: ..... 有																				
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 出版・広告・印刷業界 株式会社ドットゼロ、日本印刷株式会社、有限会社ジップコーポレーション、等			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)																				
	■就職指導内容 学生一人ひとり面談を行い、希望の企業へ就職するために必要なポートフォリオ制作指導を通じ、専門職に就く意識、技術を高められる指導を行う。 ■卒業者数 ..... 25 ..... 人 ■就職希望者数 ..... 25 ..... 人 ■就職者数 ..... 22 ..... 人 ■就職率 ..... 88 ..... % ■卒業者に占める就職者の割合 ..... 88 ..... %  ■その他 ・進学者数: 1人  (令和) 元 年度卒業生に関する 令和2年5月1日 時点の情報				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>なし</td> <td>0</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	なし	0	0人	0人										
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																						
なし	0	0人	0人																						
中途退学 の現状	■中途退学者 2名 平成31年4月1日時点において、在学者49名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者47名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合・病気療養・進路変更・経済的問題等			■中退率 4%																					
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																								
当該学科の ホームページ URL	http://www.n-designer.net/																								

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

各分野のエキスパートになるための専門知識・技術の習得と教養豊かな人間を形成する教育により、社会人基礎力・人間力・基礎学力を基本とし、専門的知識・技術の習得と実務への適応力、自己啓発・自己形成の意欲向上、社会貢献できる人材を育成する授業カリキュラムの編成を行う。授業カリキュラムの編成にあたり、本校の教員のみならず、外部の企業・業界の有識者と連携し、より実践的な授業科目の開設や業界の動向を含めた授業内容の改善を行うことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学科運営の取決事項に係る会議体において、本委員会での事案を審議する位置付けとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
遠渡 譲	名古屋イラストレーターズクラブ 企画委員(グラフィックデザイン業界団体)	令和元年4月1日～令和3年3月31日(2年)	①
玉置 真司	アドラフト株式会社 代表(広告代理・映画配給プロモーション)	令和元年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
岩川 涼一	株式会社山崎デザイン事務所 アーティレクター(グラフィックデザイン・広告制作)	令和元年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月下旬、9月下旬)を基本とする。但し、開催期間の変更・追加開催を行う場合がある。

(開催日時(実績))

第1回 令和元年9月18日(水) 16:00～17:00(令和元年度学科運営に係る開催)

第2回 令和2年3月23日(月) 17:00～18:00(令和元年度学科運営に係る開催)

第1回 令和2年9月28日(月) 17:00～18:00(令和2年度 学科運営に係る開催)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

第1回(令和元年度学科運営:進捗事案)

○産学連携科目の進捗

→職業実践科目「広告制作」・「DTP」の進捗

・「広告制作」:16週において、販売促進企画、カードデザイン制作を開始し、各学生のデザインプレゼンテーションの上で、企業より選定が確定。

販売促進のDM印刷制作及び、令和元年10月より商品化したポイントカードを運用。また個々デザインのキャラクターを活かした新たなグッズ展開の企画も継続。

・「DTP」:16週において、販売促進用の「DMデザイン」・「店舗ロゴデザイン」を進行。既にカフェ実店舗で活用されている。

第2回(令和2年度学科運営:計画事案)

○カリキュラム構成・改善

→知識・技術に伴う実習と同様に、企画デザイン、プレゼンテーション能力を伸ばせる授業展開の提案

・R元年度授業シラバスにおいて、1年・2年各2科目について、課題提出のみならず、制作発表を組み込む形に改訂し、運営する形に変更。

・令和2年度の職業実践科目では、引き続き実店舗への販売促進物のデザイン制作等、学生自身が取り組んだ成果を体感出来る案件課題を計画。

第1回(令和2年度学科運営:進捗事案)

○産学連携科目の進捗

→職業実践科目「広告制作」・「DTP」の進捗

・「広告制作」:においてブランドイメージに沿った企画提案をもとに、POPデザイン制作を開始。各学生のデザインプレゼンテーションの上で、企業より選定が確定。各商品の販売促進のポスターやPOP企画デザインに取組んだ。新たなグッズ展開の企画も実施。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

デザイナーに必要なスキルとして、様々な業種のクライアントが想定される。どのような業種・職種に関わらず、企業と連携を図る事で、多種多様なデザインを制作できるようになる事や社会と学生が関わり成長することを基本方針とする

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業との連携関係においては、学生が企業の仕事を理解するために、企業から実務に即した講義を受け、実習を通じて打合せ等を重ね、業界・業務水準を体感できる内容とする。

<授業における企業連携のスケジュールについて>

- ・「企業による案件講義（クライアントによる依頼事項含む）：1回」
- ↓
- ・「デザイン制作指導：3回」
- ↓
- ・「学習成果の評価：学生プレゼンテーション（クライアントへのプレゼンテーション含む）2回」・・・期末試験・単位評価に反映
- ↓
- ・「商品化」・・・企業側の裁量により商品化

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
広告制作	企業案件として、企画から制作までの実務内容を通じ、仕事を理解した実践制作を行う。	株式会社山崎デザイン事務所株式会社レクスト
DTP	デスクトップパブリッシングの基礎を学び実践的な印刷データの作成を学ぶ。職業実践の観点として、「ポスターデザイン」・「店舗ロゴデザイン」を実践制作として取り組む。	アドラフト株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

企業と連携した研修は、教員に対して職務の遂行に必要な知識、技能等の習得と学生指導や学生に対しての各種個別カウンセリング能力の向上により、教員の資質等の向上を図ることを基本方針とする。また、研修は、校長により計画・実施され、教員の勤務年数や性行、学生アンケート結果、学生の退学率や就職率等により判断し、当該教員に必要と思われる研修を受けさせるよう努めなければならない。また、教員は研修に対し、企業の指導が効果的に実施されるよう従い、自身の知識、技術の習得や学生指導力等の向上に努めなければならない。

<研修等計画の具体>

- ・年度計画・・・基本として、毎年度作成により実施
- ※但し、学校運営の進行において、校長が必要と判断した場合、以下のプロセスを経て実施

1.「学科長は、企業等からの業界情報および教育編成委員より指摘事項の共有」→2.「学科長は、研修等案(対策・対応案)を作成」

→3.「定期週内会議にて報告し、当該教員の研修時期と内容を定める」→4.「校長の承認」→5.「研修・講習等の参加」

→6.「定期週内会議報告(進捗含む)」→7.「状態に応じて教育反映の精査(校長判断による)」

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「魅力ある伝え方を学ぶプレゼンテーション講座」(連携企業等：株式会社チャレンジドリッチ)

期間：令和2年2月10日(月) 対象：ビジュアルデザイン学科担任

内容：デザイナー及びクリエイターとしてただ作るだけでなく発表も大切である。プレゼンテーションが苦手な学生へ指導するための魅力のある伝え方を学ぶ研修を実施。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ブレインコーチング」(連携企業等：教育講演家・木村玄司氏)

期間：令和元年5月17日(金) 対象：ビジュアルデザイン学科担任を含み 全教職員

内容：脳科学や心理学といった“脳の仕組み”をいかして成果へと導く「ブレインコーチ®」として、経営者の業績アップや、学生指導を行う上での指導を学ぶ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「魅力ある伝え方を学ぶプレゼンテーション講座」(連携企業等：株式会社チャレンジドリッチ)

期間：令和3年2月8日(月) 対象：ビジュアルデザイン学科担任

内容：デザイナー及びクリエイターとして魅力や思いの伝え方や技術を学ぶ。プレゼンテーションが苦手な学生へ指導するための魅力のある伝え方を学ぶ研修を実施。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「コミュニケーション力を高める」(連携企業等：精神保健福祉士 藤野 裕道 氏)

期間：令和2年9月23日(水) 対象：ビジュアルデザイン学科担任を含み 全教職員

内容：グループワークを通じ、コミュニケーションスキルを磨き、マナー(相手への気遣いなど)の在り方、学生指導方法の向上を図る。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「学校点検・自己評価」をもとに企業・業界、卒業生や地域住民を含めた「学校関係者評価」を実施しホームページ上で公開を行うとともに、その結果を踏まえた学校運営の改善に取組み本校学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう学校運営の改善と充実を目指す事を基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 学校の理念・目的・育人人材像はさだめられているか 2 学校における職業教育の特色は何か 3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか 4 学校の理念・目的・育人人物像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか 5 各学科の教育目標、育人人物像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	1 目的等に沿った運営方針が策定されているか 2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか 3 運営組織や意思決定機能は規則等において明確化され有効に機能しているか 4 人事、給与に関する規定等は整備されているか 5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか 6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか 7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか 8 情報システム化等による業務の効率化がはかられているか
(3) 教育活動	1 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 2 教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか 3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか 4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか 5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか 6 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか 7 授業評価の実施・評価体制はあるか 8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか 9 成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか 10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか 11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 12 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか 13 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか 14 職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	1 就職率の向上がはかられているか 2 資格取得率の向上がはかられているか 3 退学率の低減が図られているか 4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか 2 学生相談に関する体制は整備されているか 3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか 4 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか 5 課外活動に対する支援体制は整備されているか 6 学生の生活環境への支援は行われているか 7 保護者と適切に連携しているか 8 卒業生への支援体制はあるか 9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか

(6)教育環境	1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 2 学内外の実習施設、インターンシップ海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 3 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	1 学生募集活動は、適切に行われているか 2 学生募集活動において教育効果は正確につたえられているか 3 学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 3 財務について会計監査が適正におこなわれているか 4 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適性な運営がなされているか 2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 3 自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか 4 自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 2 学生ボランティア活動を奨励、支援しているか 3 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	1 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか 2 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理などにおいて適切な手続き等がおこなわれているか 3 留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか 4 学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(2)学校運営「情報のシステム化等による業務の効率化」

- 委員評価 ⇒ 個人情報を取り扱う為…重点意識の依頼
- 学校活用 ⇒ 評価後 教員PCをセキュリティソフト更新

(3)教育活動「業界団体との連携によるカリキュラムの見直し」

- 委員評価 ⇒ キャリア教育としての実践的な内容に変わる事が期待
- 学校活用 ⇒ 後期シラバスの修正と次年度(カリキュラム)を随時改訂していく

(4)学修成果「卒業後のキャリア形成…学校の教育活動の改善に活用されているか」

- 委員評価 ⇒ 卒業生の活躍は生きた教材(手本)…成果のフィードバック
- 学校活用 ⇒ 就職課・広報課の2部署から卒業生の近況情報把握作業に着手OB/OGによる在校生交流を検討

(5)学生支援「卒業生への支援体制はあるか」

- 委員評価 ⇒ 卒業生にも就職・転職情報を配信できるサービスの検討
- 学校活用 ⇒ 卒業生に対して、卒業後も支援する体制として、活用しやすく改善、希望者には就職情報メールの配信サービスを行う

(10)社会貢献・地域貢献「学校施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」

- 委員評価 ⇒ 学校祭などで学校施設を開放 地域交流を検討願いたい
- 学校活用 ⇒ 地域交流イベントとして学校行事見直し→企画立案中ボランティア活動を含む地域に貢献できる活動を計画

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
亀崎 敏郎	一般社団法人観光スケッチ協会 理事(デザイン業界団体)	令和元年4月1日～令和3年3月31日(2年)	業界団体
坂本 隆	株式会社インパクトたき 総務部長(デザイン業界・企業代表)	令和元年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業
久保田一成	税理士法人 横須賀・久保田(本学園・名古屋地区監査)	令和元年4月1日～令和3年3月31日(2年)	税理士
臼井 秀明	栄東まちづくりの会 会長(地域住民代表)	令和元年4月1日～令和3年3月31日(2年)	地域住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ:年次更新<8月予定>)

URL: <http://www.n-designer.net/>

公表時期: 令和2年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等関係者に情報提供することで、相互の対話が促進され、学校内外の実習、就職指導など企業等との連携による活動の充実や、産業界のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善をする意図がある。その他、地域住民等に情報公開することで、地域に関わる取組みへの理解・支援を得る。また、入学検討者に対し、希望する進路・将来進む業界へ合致しているか明確に示すことや進路指導への活用に資することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	1 校長名 2 所在地 3 連絡先 4 沿革 5 施設・設備 6 組織図
(2)各学科等の教育	1 定員数 2 目指す資格 3 取得資格 4 主な卒業後の進路
(3)教職員	1 教職員人数・構成
(4)キャリア教育・実践的職業教育	1 就職支援等の取組
(5)様々な教育活動・教育環境	1 学校行事
(6)学生の生活支援	1 心のケア
(7)学生納付金・修学支援	1 学費 2 修学支援
(8)学校の財務	1 賃借対照表
(9)学校評価	1 自己評価報告書 2 学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	-
(11)その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

本学ホームページにて、以下8項目について情報を公開しています。

- ・学校概要
- ・学生納付金・修学支援
- ・募集学科・募集定員
- ・組織図
- ・自己評価報告書
- ・学校関係者評価報告書
- ・財務
- ・職業実践専門課程の基本情報

トップページ → 情報公開（下段内：項目） → 各項目ごとに公開 ・ pdfファイルにて閲覧可能

<http://www.nag.ac.jp/evaluation/ndg.html>

URL: <http://www.n-designer.net/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 ビジュアルデザイン学科) (令和 2年度)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		デザイン概論	デザインの歴史や成り立ち、変遷を通じビジュアルデザインを形作る視覚効果として配置や色使いを学び、現代に相応しい知識を習得する。	1通	64	4	○			○			○	
2	○		生活文化論	衣食住における生活に密接したデザインを学び、ビジュアルデザインの役割とその分野におけるの広がりや可能性を学ぶ。	1通	64	4	○			○			○	
3	○		色彩演習	色の持つ意味や色相、色彩、明度の役割とその応用として平面構成に役立つ力を養う。	1通	64	4		○		○			○	
4	○		視覚伝達論	文字媒体、ビジュアル媒体が視覚に与える影響や感動を通じコミュニケーション成立までの過程を知る方法論を学ぶ。	1通	64	4	○			○			○	
5	○		デザイン心理	色の心理効果、デザインにおける精神的影響が、パーソナルからパブリックへと通じる迄のデザイン影響力を学ぶ。	2通	64	4	○			○			○	
6	○		印刷論	印刷技術とその発達から、現代におけるビジュアルデザイン変遷における技術の進歩とその効果を深く理解する。	2通	64	4	○			○			○	
7	○		広告論	広告制作の成り立ちと社会的役割が与える影響力やアプローチを現在の事例を交え学ぶ。	2通	64	4	○			○		○		
8	○		デザイン史・美術史	デザインの興りから現在までの過程と美術とデザインの相違点を総合的に学ぶ。	2通	64	4	○			○			○	
9	○		デッサン	画力、表現力にも通じる立体感や奥行きへの習熟により、総合的な制作力を底上げする。	1/2通	##	8		○		○			○	
10	○		ビジュアルデザイン基礎	画材の知識と用途、使用方法を通じて、ビジュアルデザインにおける基礎を学ぶ。	1通	64	4		○		○			○	
11	○		グラフィックデザイン基礎	平面や立体を問わず、表現する事に重点を置き、大量印刷を目的としたスキルの向上を行う。	1通	64	4		○		○			○	

12	○		レタリング	アナログ作業によるレタリングを行い、ツールに依存しない作業を学ぶ。	1通	64	4		○	○	○							
13	○		タイポグラフィ	印刷物の可読性、視認性を学び、広告制作に必要な知識を身につける。	1通	64	4		○	○	○							
14	○		基礎造形	点や線、面、立体など線や形に潜む美しさと表現効果を学ぶ。	1通	64	4		○	○	○							
15	○		マテリアル	イラストに関わる様々な素材、紙や画材など特性に合わせて必要な制作内容を学ぶ。	1通	64	4		○	○	○							
16	○		アドバタイジング基礎	様々なメディアを利用する事で広告制作課程を学び、紙媒体のみに囚われない発想力を養う。	1通	64	4	○		○	○							
17	○		広告制作	企業案件として企画から制作までを実務的内容を通じ、言葉とイラストを交えた制作実習を行う。	2通	64	4			○	○	○	○					
18	○		イラストレーション	アナログ画材を用いてイラストレーション制作を行いアナログ画材による表現を学ぶ。	2通	64	4			○	○	○						
19	○		コンピュータ実習	Illustrator・Photoshopを使用し、デジタル制作において重要な知識と技術の習得を目的とする。	2通	64	4			○	○	○						
20	○		創作研究	独自の世界観を追求し、その世界観をどう外部へ表現しうるかを問い、テーマに沿った作品を制作する。	2通	64	4			○	○	○						
21	○		オブジェ	立体物を造形することで平面構成だけではなく、造形による立体構成を身につける。	2通	64	4		○	○	○							
22	○		デザインワーク	マーケティングリサーチに基づき企画の立て方とその企画から生まれる新しい提案までの過程を学ぶ。	2通	64	4	○		○	○							
23	○		アクセス	具体的な企業研究を行い、各分野に向けてのアプローチの仕方やマナーを研究、習得する。	2通	64	4	○		○	○							
24		○	編集デザイン	雑誌や印刷媒体に必要な編集をInDesignなどを使用して学ぶ。	1/2通	##	8			○	○	○						
25		○	キャラクターデザイン(ファンシー)	絵本やパッケージなど子供向けの製品デザインをする上で必要となるキャラクターデザインの企画からデザインアップまでを学ぶ。	1/2通	##	8			○	○	○						
26		○	キャラクターデザイン(ゲーム)	ゲームを制作する上でキーグラフィックとなりえるキャラクターの制作を学ぶ。	1/2通	##	8			○	○	○						

27	○	マンガ制作	マンガの制作において必要になる技術と知識を現役マンガ家から学び主人公やポーズ、配置構成などマンガに必要なスキルを学ぶ。	1/2通	##	8			○	○			○
28	○	アニメーション制作	アニメーターとして原画制作、配色、背景、動きなど企画から制作までの過程に必要な内容を学ぶ。	1/2通	##	8			○	○			○
29	○	VI企画	ビジュアルアイデンティティを学び、様々なパブリシティに通じるロゴ、シンボルマークの制作を行う。	1/2通	##	8			○	○			○
30	○	絵本制作	自己の世界観を構築し、オリジナルシナリオによる絵本制作を行い、装丁や製本技術を学ぶ。	1/2通	##	8			○	○			○
31	○	写真实習	広告制作において必要になるカメラ等の撮影機材を用い、広告制作に必要な写真技術を学ぶ。	1/2通	##	8			○	○			○
32	○	アート	自己の世界観を配色、線、面、動き、大小、形で自由に表現する事で新しい世界観を生み出す。	1/2通	##	8			○	○			○
33	○	コンピュータアート	Illustrator・Photoshop等デジタルでのイラスト表現、ビジュアル表現を追求する。	1/2通	##	8			○	○			○
34	○	シルクスクリーン	印刷技術の技法としてのシルクスクリーンを利用した写真製版印刷技術を学ぶ。	1/2通	##	8			○	○			○
35	○	クロッキー	形を捉え、描写の表現力向上を学ぶ。	1/2通	##	8			○	○			○
36	○	DTP	デスクトップパブリッシングの基礎を学び実践的な印刷データの作成を学ぶ。	1/2通	##	8			○	○		○	○
37		○	インターネット研修	企業研修および企業における販売促進ツールの制作提案など企業連携の実技を行う。	2通	32	2		○		○	○	
38			オブジェ	立体物を造形することで平面構成だけではなく、造形による立体構成を身につける。	2通	64	4		○		○		○
合計				37科目	3232単位時間(				202単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：所定の課程を修了し、試験に合格した者について平素の成績及び性行を勘酌して認める。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。